

令和5年度 箕面市行政視察報告書

(公明党箕面市議会議員団)

1 日程

令和6年2月1日(木)～ 令和6年2月2日(金)

2 視察先

(1) 高知県 香南市

視察項目	・教育支援センター森田村塾について ・子育て世代包括支援センターについて
視察目的	コロナ禍を受け、より顕在化した不登校児童の増加に伴い、学校復帰や将来の自立を目指した支援について、先進的に取り組んでいる「森田村塾」等の取り組みを学び、本市の不登校児童の新たな施策提案の一助とするもの。

(2) 高知県 安芸市

視察項目	・「農福連携」の取り組みについて
視察目的	障がいやひきこもりで就労が難しく、生きづらさを抱える人たちへの官民の枠を大きく飛び越え、先進的な就農支援の取り組みを学び、自立支援の新たな視座を得つつ、本市の新たな施策の一助とするもの。

3 参加者

議員	公明党会派 岡沢 聡議員 田中 真由美議員 楠 政則議員
----	------------------------------

(1) 高知県 香南市

項目	内容	備考
<p>教育支援センター森田村塾について</p>	<p>○教育長より 不登校児童については、平成 25、6 年から高知県全体の数が全国の中でも多かった、その中で香南市が最も多かったため、連携教育を実施し、保育所・幼稚園・小学校・中学校が連携しつつ施策の統一化を行ってきた。その結果、令和元年まで順調に改善。しかしながらコロナ禍でまた増加に転じたが、それは言い訳だと考えている。なお、令和 3・4 年には再び改善している。</p> <p>○森田村塾開設趣旨 学校に行けなくなった児童の為の居場所づくりであり、学校復帰や自立を目指しての支援や指導の必要性から、個別相談、カウンセリング、学力補充、集団への適応指導を行い、家庭や社会生活に適応できるよう助言や支援を行う事を目的に開設された。</p> <p>○森田村塾を運営するための条件整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習机などの施設整備・送迎は基本家族が実施 ・訪問活動や子供の送迎の為の公用車・昼食の給食対応 ・ICT 機器 (ICT 支援員) などの設置や学校からのライブ配信 →タブレットも学習よりも慣れることを優先し活用 ・図書館との連携による図書コーナー (月間入替え 50 冊) ・スクールカウンセラーと連携した学校・家庭訪問 <p>○相談活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ型スクールカウンセラー ・職員や支援員による相談活動 <p>○育成活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科的な学習・自主活動・軽スポーツ・体験活動・塾外活動 <p>○学校との連携・共働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援会への参加 ・教員が来塾しての協議、教員と繋がる関係づくりを構築 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結果を急がず、あくまでも子ども将来につながるように支援を行っている 	<p>説明 香南市 教育長 森田村塾 塾長</p>

<p>子育て世代包括支援センターについて</p>	<p>○子育て支援包括センターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長の「子ども真ん中政策」により、子どもに対する施策を中心に事業化されており、今回の「産前・産後サポート事業」「産後ケア事業」もその一環である。1人あたりの保健師の担当は5000人。なお、子育て世代支援包括センターは令和5年4月から設置しており、ワンフロアに他の支援機関（子ども家庭センター・社会福祉協議会）も常駐しているため、日常の連携が取りやすい配置になっている。 <p>○子育て支援包括センターと総合子育て支援センター「にこなん」との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にこなん」での保護者の心身状態や育児状況、発育発達面で気にかかったところは連携を行い、健診や地区担当保険員がフォローを行っている。 	<p>説明 香南市 健康対策課 課長</p>
--------------------------	---	--------------------------------



所 感

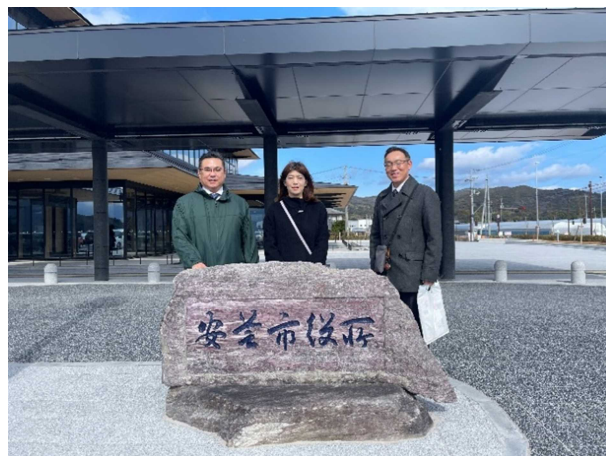
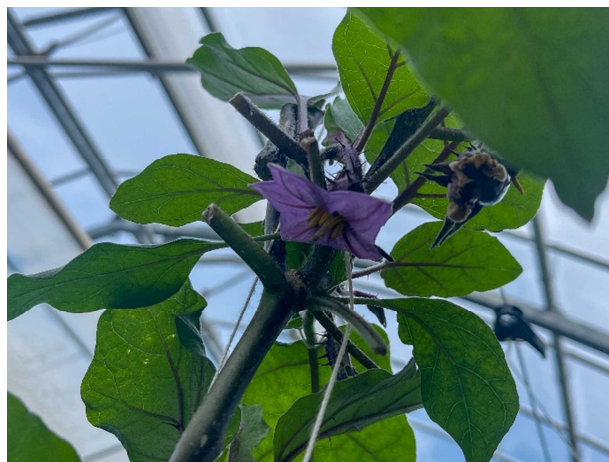
○教育支援センター（森田村塾）に任せきりにするのではなく、学校も含めた重厚な体制構築のうえで、児童の自主性を尊重し丁寧な取り組みを行っている事が非常によくわかった。また、塾長の「学校に復帰できるか否かは、学校の教員が児童にどれだけ関わることが重要、また、復帰した児童が違和感なくクラスに溶け込めるよう、その児童の存在を普段から児童に示しておく必要がある」という言葉が印象に残った。

(2) 高知県 安芸市

項目	内容	備考
「農福連携」の取り組みについて	<p>○地域特性 高知県東部にあり、市域の89%を広大な森林が占め、平野部では主要産業である農業で、「ゆず」「冬春ナス」が全国有数の生産となっている。施設園芸の発祥地とも言われており、4人に1人が農業従事者である。</p> <p>○農福連携のきっかけ 平成23年に安芸圏域内の自殺者が全国で8位、県内で最も高くなったことから、平成25年に自殺予防の取り組みである自殺予防ネットワークによる就労支援から始まり、平成26年5月に安芸地域の一人の男性の成功事例から「農福連携」が拡大し、平成29年11月に本格的な「農福連携」が始まっている。</p> <p>○就労支援専門部会の発足 安芸市自立支援協議会の下部組織として、生きづらさを抱えた方や、障がい者の直接支援チームとして発足、実質的な「農福連携」の実働部隊であり、各機関の情報共有、個別ケースの支援検討会、各種制度の勉強会、安芸市農福連携研究会の情報共有などを毎月1回の頻度で実施。</p> <p>○農福連携検討会の開催 就労先の確保や定着支援には、官民の組織を超えた連携が必要であり、真の農福連携である事を共有。以下が構成組織。 ・安芸市農林課・福祉事務所・JA高知県安芸地区・安芸農業振興センター・安芸保健所</p> <p>○安芸市農福研究会の設立 安芸市として、将来にわたって持続可能な「農福連携」を進めていくことや、組織につきものの人事異動があっても変わらず「農福連携」を推進していくために設立、各機関の情報共有・生きづらさや障がいの理解のための勉強会・「農福連携」の普及や啓発事業の掲載を行っている。</p> <p>○作業所の設立について 「農福連携」が拡大するにつれ、“最低賃金”がもらえない方が発生するという問題が顕在化したため、一般社団法人こうち絆ファームを設立、作業内容はナスの栽培、収穫、袋詰め、出荷が中心、袋詰めに関しては完全出来高制とすることで、月10万円以上の収入を確保している。</p>	<p>説明 安芸市 農林課 課長補佐 福祉事務所 主幹</p> <p>こうち絆ファーム 理事</p>

○安芸版農福連携ケアシステム

「農福連携」にとどまることなく、酪農・法務・林業・水産業・商業・高齢福祉・特別支援学校・医療機関・工業などと住宅から就労先までの様々な連携を行い、誰もが自分らしく安心して暮らせるまちづくりを目指している。



所 感

○個人の特性に応じたマッチングを行う事により、「農福連携」にとどまらず、更なる展開を行っている事や、雇い主自身の受け入れに関する研修会や、福祉側での細やかな伴走支援や地域の理解があってこそその事業の継続・拡大につながっている事を学んだ。また何よりも作業所の方々の活気あふれる光景が目にと焼き付いた。